国際教育夏季研究大会 2019
参加者事後アンケート

SIIEJ 2019 Survey

令和2年1月

一般社団法人　持続可能な国際教育推進のための研究コンソーシアム

目次

1．本研究大会での学び／Your takeaways from SIIEJ 2
1－1）今回の研究大会で得た主な学び・気づき／What you learn at this conference 2
1－2）今後、自らの仕事や生活に生かせると思うこと 8
／How you would apply your learning in your work and life

2．本研究大会の内容に対する満足度／Satisfaction rate regarding the contents of the conference 13
②基調講演（Keynote Speech by Dr. Darla Deardorff） 13
③分科会セミナーI／Seminar I: COIL Workshop 13
⑤パネル ディスカッション①「国際教育におけるプロフェッショナリズム」 13
／Panel Discussion ① Professionalism in International Education
⑦昼休みに行われた本会への寄付団体からのプレゼンテーション 14
／The presentations by sponsors during lunch time

3.ワークショップとセッションについて 16
①参加したワークショップ／Workshop you attended 16
③参加したセッション／Sessions you attended 18
Session ① 国際化は誰のために、何のために進めるのか
Session ② Career Readiness and Global Internships
Session ⑧ 留学プログラムの学習効果測定 – BEVI-j を用いた留学プログラム
Session ⑨ The Changing Paradigm of International Education Outcomes Assessment
Session ⑩ Tools for Developing Intercultural Competence
⑤上記の各企画において特に良かった点や改善のためのアドバイス 20
／Comments or suggestions on the workshops or sessions you joined
◆良かった点 20
◆改善のためのアドバイス 20

4.ネットワーキングについて／Networking 22
4－1）来年、参加したいですか。 22
／Would you like to participate in the SIIEJ 2020?
4－2）同僚や友人に来年の参加を勧めたいと思いますか。 22
／Would you recommend the SIIEJ 2019 to your colleagues or friends?
4－3）次回、取り上げてほしいトピックなど 23
／Topics what you want us to choose for the SIIEJ 2020
4－4）来年に向けた改善点、アドバイスなど 27
／Comments or suggestions for the SIIEJ 2020

1．本研究大会での学び　／Your takeaways from SIIEJ

1－1）今回の研究大会で得た主な学び・気づき／What you learn at this conference

・大学間協定の基本的な考え方事例とその深度。
・大学の授業の改革、評価の方法。
・国際教育への好奇心と向上心を持ち続けることの重要性。
・大学が国際化するための意味。
・イノベイテブな活動をしている国内外の連携の重要性。
・外部機関との協業オプションを知ることができた。
・大学側のグローバル展開に於ける関心度の高さ。　参加者の情熱の高さ。
・参加者はこのような学びの機会を求めていることを強く感じた。
・日本の大学では AP の単位認定をしていないことを知って愕然とした。
・異文化間能力とトレーニングに関して日常的にできることは何かを考えることを学んだ。
・大学の国際化について多角的な視点から最新の知見を得ることができた。
・本会の運営にあたってくださった芦沢先生はじめ、関係者の先生方が、国際教育に携わる者としてのプロフェッショナリズムを体現しておられたのが、大変印象的でした。先輩方の姿勢に学びたいと思いました。
・国際教育のトレンドは常に変わっていくので、その動向を意識しながら他大学や外部団体とうまく連携、情報共有をしていくことが重要である。
・外部連携は非常に有効である一方で環境によって導入のハードルが非常に高い事もある。
・他大学で国際教育をどのように実践しているかを理解することで、自分の実践をより批判的な視野でとらえることができることができた。
・様々な背景を持つ参加者がそれぞれのレベルから、共通のトピックについてアプローチしており、それぞれの視点を理解することができた。
・国際教育の理論的枠組みと実践にはかなり大きな隔たりがある。
・学習成果の評価に関して多様な方法があるゆえに適切な組み合わせを見出すのに苦労する。
・教職協働で実施することで、より深く考察することが出来た。
・学外の方が本音で腹を割って話せる状況を作りやすいのだなと思った。
・大会テーマであった「国際教育におけるプロフェッショナリズムを考える」 について、世代や立場による考え方の違いが大きい。
・（自分も含めて）国際教育分野で安定した職を得るのが難しいことを再認識した。
・グローバル社会に対応する人材育成においては大学間の連携の重要性を感じた。
・今後変わりゆく社会の中で、学生に必要となる環境、情報を提供していくことの必要性を学びました。
・好奇心をもってオープンに、繋がりつづけることの大切さを学びました。
・他大学の方との交流により、新たな知識が得られとても刺激になったこと。
学術的な見解と、現場ベースの体験談の双方があり、バランスのよい研究会でした。
・セオリーを用いた異文化理解の必要性
・日本の国際教育分野で活躍している、とてもしっかりとした若い担当者の方々に多数お会いできました。その反面、任期付きのポジションであったり、PhD や EdD などを持たないかたとそうでない

方と、活躍の場所が限られていたり、ギャップがあるような印象を残念ながら受けました。そういった個所が改善され、国際教育がフィールドとして成熟すると素晴らしいなと思いました。
・参加したセッション、ワークショップは全体的に満足でした。
・大学職員の国際教育に関わる知識・スキル向上の必要性
・現在アドミッションズ・オフィス（入学部）で勤務しており、オフィスの最大の目的は海外からの学生の定員を毎年集めることなのですが、その学生募集の一環として、海外高校生向けの一週間のサマープログラムを開催しております。本来このようなプログラムはアカデミック・オフィスが担うことが多いのですが、大学を PR して学生を募集することを目的にアドミッションズで開催しています。
・今回本大会に参加させていただいたのは、特にこの海外高校生向けのプログラムに関わって、国際教育の場作り、あり方などの分野について学ぶためです。このサマープログラムを担当しているものの、国際教育について学んだこともなく、知識もなかったため、今回この大会に参加させていただいて、短い時間ではありましたが、大変勉強になりました。専門家でない私でも、担当しているプログラムをより良いものにするために工夫できる部分が多くあることがわかりました。
・短い時間ではありましたが、各セッション・ワークショップで様々な方と深いお話ができ、アドバイスをいただき、今後業務をしていく上でも、また私自身の人生においても糧となる情報をたくさん得ることができました。
・高等教育機関で国際業務に携わるためには、日々学び（研究し）、それを実践することが必要であるということ。
・国際教育に携わりたいと思ったきっかけをもう一度見つめ直すことができた事
・本学（東工大）が国際化するために必要なアクション（情報提供とデータの集約、海外派遣手続きに加え、交流実績等）を改めて考えた。
・私は社会人になって 5 年目、海外関連業務に携わることになって 2 年目ですが、「国際教育」という分野でこんなにも熱心に研究や実践を行っている方々がいらっしゃるということを知れたことが一番の収穫でした。私もこの道を進んでいきたいと強く感じました。
・皆さんの熱意やエネルギーから、とてもポジティブな刺激を受けました。
・学生へアドバスすると同時に、自身の異文化対応能力についても向き合う必要があると感じました。
・大学側の担当者とお話しする機会を多く持てたことで、それぞれの大学の特徴、学生にあったプログラム選択をされている状況を知ることができました。
・日本の高等教育における国際化が、大学自体の運営の面から、日本の企業の面から、強く求められているが、実際には、大学内部での雇用制度や体質により進行することが難しいことを知ることができた。
・異文化感受性発達理論で理論を学ぶことにより、研修を企画する際にどの段階を対象にした研修にするのかを意識できるようになった。
・留学促進のためのさまざまな取り組みについて各セッションやワークショップを通じて把握することができました。
・大学内の縦割が多いので、やはり合意形成が難しいと改めて感じた。
・目的・戦略と評価がつながっていなければならないということ。
・対象や学生のレベルにより、目的が異なるため、評価基準も異なる。
・本学ではすぐに取り入れることは期待できないが紹介したいと思う。

・国際教育の取り組みの意義や、各大学での教職員の方々それぞれの視点からお話を聞くことができ、交流ができたという意味で良い機会となった。
・大学ごとに留学生への授業料を上げて稼いで欲しい、というリクエストがあったが、努力をする必要はあると思うが、果たしてそれで良いのか、民営化が進むことに心配を感じた。
・人が定期的に変わることに人間関係のことなど良い点もあるが、業務上は悪い点も多い。人が変わるたびに、情報共有や手続きなどの問題が出てくる。すぐに解決できる問題ではないが、日頃思っていたことが議論されていて、大きな問題の一つだと思えた。
・大学の業務がとても複雑になりすぎて、新しいことが進まない現状がある。今後どうすべきかは、みんなで早急に考えて整理していく必要があるように感じた。
・ダーラ先生や堀江先生のスライドにあった異文化理解能力などのリスト化。
・異文化能力教育では、教育されることがたくさんあるので、リスト化されることで整理された。また、それ以上に、リスト化されていないが重要な学びもあると感じたので、どのように日々感じる小さな学びも整理できるのか、考えていく必要があると感じた。
・教員だけではなく、国際教育にかかわる職員ともよく交流できたのは今回、初めてでした。
・国際交流活動における日本と海外の大学の違い
・国際交流活動を行う上で、日本の大学同士が連携できていない事実。
・大学国際化について、様々な立場の担当者が継続的に学ぶことが必要であること
・国際化で国からお金をもらえる時代から、大学自身でお金をやりくりしたり、国際化で収入を得ることが求められる時代になってきているということ。
・職員の立場でも、目的を持って行動すれば、状況を変えて進んでいけることを知った。
・問題について、ルールがあっても、答えが明確にあるわけでなく、ケースバイケースで検討する必要があることがわかった。
・海外の高校向けのリクルート方法やエージェントの利用についてよく理解できた。
・国際教育に関する理論について知ることができました。元々、この分野については実践から始めたので、これまでの活動を振り返るきっかけとなりました。
・これをやれば国際化できるというモデルはなく、それぞれの大学がユニークなモデルを考える必要があること。
・大会テーマの「国際教育におけるプロフェッショナリズムを考える」は国際教育外のセクターで取り組まれている人材開発、組織マネジメントに通じることがよく理解できた。多くの大学におけるシニア・マネジメント層の国際教育分野のプロフェッショナリズムの重要性の理解の度合いは総じて低く、人材の高い流動性がもたらされている。
・国際教育プログラム構築の難しさ
・海外の事例等を含め、様々な取り組みを知ることができた。
・大学の国際化はもっと大局的な視点から議論すべきであるということ。
・組織を動かすためにはリーダーシップが重要だということ。
・プロの実務家として、忙しい中でも、しっかりと研究を行い、応用へ繋げることの重要性を再確認した。
・1 つの大学単独では、グローバル化には限界があることを再認識した。
・学生交流について多角的に学習できました。他の参加者との情報交換を通じて、他大学の取り組みについて知ることができたことが有意義でした。

・スーパーグローバル事業等で雇用されている任期付きの教員・職員の方が多いことに気づきました。学内のプロパーの方との熱意の違いなどを感じるとともに、補助金終了後の雇用等について気になりました。
・SAF や CIEE、JTB リスクマネジメントセミナーなど、興味深い機関、セミナーについてのお知らせがあり、今後の業務に役立てたいと思いました。
・国際教育を現場レベルで、また様々な観点から話を伺えたのはとても有意義でした。
・ハイブリッド型国際教育交流。南山大学で、留学前にスカイプ等を利用した事前交流を行っている事例。
・立命館大学で、TOEFL の学習だけでなく、異文化適応やメンタルヘルスについての勉強も行っていた点。
・国際教育のための人材育成について
・役割を知ることの大切さ。
・大学の国際交流資金を割り振られるのを待つのではなく、国際交流部署自ら生み出す方法を考える。
・各大学国際交流の規模の差はあれども、抱える課題は類似性があり、それらの課題をどのように解決されているのか参考になりました。
・学生獲得に関して、そのアプローチを他大学と共有する寛容さ
・理論的なフレームワークと実践を通じたその検証、新たな理論の構築という学問においてはきわめて基礎的な手続きを、国際教育にも適用することの重要性。
・国際教育関係者は「Life-long Learning」が大切であること。
・参加している教職員の知識・スキルに非常に大きな差があること
・留学プログラムの客観的評価についての問題意識が、広く大学に共通して存在している
・日常当たり前にしている業務にも、理論とエビデンスを当てはめて取り組むことに意義があると気づきました。
・参加者の皆さんがとても熱心だったこと。
・アセスメントの重要性
・微力ではございましたが、実行委員として携わらせていただき、学会・研究会の運営の裏舞台を間近で拝見することができました。学びの場を形成するためにどのような人が、どのようにかかわられているのかを知ることができたことは大変大きな学びでした。ありがとうございました。
・事務局、学生スタッフ、南山大学担当者の働き。
・芦沢さんの昼夜問わず働く攻める姿勢。220 人規模の大会を運営するって、こういうことなんだなと思いました。
・実行委員で、準備等であまり多くのセッション等は参加できませんでしたが、現在話題にあっている国際教育交流のトピックがここまで網羅されている大会は、これまでなかったと思います。下手な学術学会より、有意義だと思いました。
・セッションやワークショップ形式といいつつ、講義形式も見られたので、何らかの形でインタラクティブにできればもっと学びが広がるのではと感じた。
・ボランティアとして参加させて頂いて、先生方の専門家としてのあり方に強い印象を持ちました。
・研修会を協力して進めるにあたっての人間的な魅力にも素晴らしいと思いました。
・参加者全員が非常に熱心に各セッションに参加していたこと。
・受け身で学ぶだけで無く、他の参加者と共に学ぶ姿勢であったこと。そこから、各参加者どうしのネ

ットワーキングの機会となって発展していたこと。
・面白い海外留学のプログラムを知って、良かったです。
・ご参加の大学・大学教職員の方々のご様子を拝見し、また、お会いして、それぞれの大学や学内での国際への取り組みの温度を感じることができた。
・課題:異動、財政、モチベ、知識、大学内部の連携
・それらの課題においては、全体会合のなかでも似たようなことが話合われていたため、日本の高等教育機関全体の課題にも通じ、業界全体がもっと自立・成長した協力でもって発展していかなければいけないのだと感じました。
・昨年に BRIDGE INSTITUTE のセミナーに初参加もさせていただきました。また今回も初めて参加をさせていただきましたが、ファシリテートやスタッフをされている方々が同じ顔ぶれのように思え、それはこのように大学改革、国際化に真剣に取り組む人々が少ないからなのか、告知が行き渡っていないのか、もっと幅広い方々へ広がるといいなあと感じました。しかし、けん引される芦沢先生をはじめ、諸先生方やメインスタッフの方々がいらっしゃらないと、本当に進まないと思いますので、今後の発展が楽しみです。
・留学を促進する立場にある教職員の方々がどのような理念・目的のもとで、実践に取り組んでいるのかについて、とくに勉強になりました。
・大学の国際化には教員と職員の協働が不可欠であり、また、常に評価ということを意識する必要がある。
・国際教育に関わる教員は探究心や意欲を持ち続け、自己内省を繰り返していく必要がある。
・国際化とグローバル化は全く別のものであるという発見。
・学生を世界に輩出するのと同様に、教員に国際化教育を施すことの大切さ。
・ワークショップ等を体験することでできる新しいネットワークなど。
・国際関係に携わる職員の悩みや、仕事に対する意欲について、自分の中にあったものを他の参加者の発表等を通して理解することができ、共感することができた。全国の大学の教職員と話す中で、本学の取り組みについての評判を確認することができた。
・国際教育に関わる人材養成に関して、多くのニーズがあることを改めて実感しました。留学生を送り出すことは大切であるが、送り出す学生の質をどう高めるかも議論されるべきではないだろうか。
・インターネットは 6G の話さえ出ているが、これからの派遣のありかたもインターネット技術の発展に応じて変わっていくのは間違いない。この辺りの議論も進めていくべきだと思われる。
・生徒中心のアセスメント、プロセスを重視するアセスメントや、どのように作ればいいかなど、これから授業を組み立てていく上で参考になった。
・参加者との交流において、色々な角度から自分の意見、志、態度などについてコメントを頂かことができ、自分のことを見直す良い機会となった。
・これまで担当してきた国際教育について実践してきたことを、今後如何に体系化し、理論化できるように先行事例などを参考にしながら研究をしていかなければならないこと。
・To be honest, connecting with individuals and discussing our teaching situations and research interests gave me the most food for thought!
・What was impressed upon me most of all was that while we often see events in Japan related to international education, often they are "one-way" in that information is presented to an audience who receives it, but there is not much interaction and sharing of information. I was

impressed that the format of this symposium better allowed participants to share information and experiences with each other in a broad range of subjects (and also was impressed by the number of faculty/staff participating). I appreciate all of the hard work that must have gone into the planning and implementation of the event. Regarding content, the full-day workshops were beneficial in that participants could delve into the subject matter more deeply than they generally have the chance to do at shorter more "typical" information sessions.

- I'm not sure that I learned anything new.
- I enjoyed the opportunity to discuss practices with colleagues.
- This was my first exposure to a conference on International Education. Therefore, the first take-away is the realization and appreciation of International Education as an academic discipline. The second take-away is the fact that, for international education, collaboration between researchers and practitioners is very important, as education and administration are deeply interlinked.
- I was impressed to know that there are so many ways to implement intercultural activities, which I would like to use for my students.

1－2）今後、自らの仕事や生活に生かせると思うこと
／How you would apply your learning in your work and life

・具体的な実践事例について、理論的な背景をふまえながら、取り入れていきたい。
・自分たちが行っているものが、時流に外れていないということがわかりました。
・現状の改善ではなく、ビジョンから今後の改革を考えることができるようになった。
・研究者として、研究、教育、実務すべてに活かしたい。
・本務校国際教育センターの戦略やスタッフの能力開発等に役立てたい。
・本学の国際共修プログラムや留学プログラムについて、効果測定の手順を加えること。
・現在担当している共修科目のカリキュラム改善に生かす予定です。
・所属大学の「国際化」に関する評価について学内に持ち帰って検討したいと考えています。
・本学では、職員のローテーションや業務の年々の増加で、職員が専門性を高める余力もない、全般的に専門性を高めるのではなく、東洋大学の事例を参考に、アウトソーシングできるものは、外注し、職員が本来推進すべきところに（国際教育プログラムの開発、調整など）範囲を狭めて育成してはどうかと考え、外部委託を検討したいと思った。
・国際教育に携わる一教員として、目の前の学生の成長にどのような貢献ができるのかを常に考え、日々の授業実践や研究指導、また自身の研究活動に生かしていきたいと思います。
・普段の教育活動や業務に追われておりますが、リフレッシュできました。また最新の情報を得ることができたり、視野を広げることのできる機会になったと思っております。
・国際教育に関する論文や発表をインプットして大学の国際化戦略を考えていきたい。
・セッションごとに学んだテーマはもちろんですが、各大学ごとの課題や、人脈が活かせるかと考えています。
・他大学の先行事例などを積極的に学んでいきたい。
・もっと理論を学び、実務に取り入れる。国際交流関係者を繋ぐ役割を果たす。
・現状、国際共修という分野は講義として行われている部分が大きいと思いますが、フィールドワーク、スタディツアーと展開した際に、そのポイントについて理解をしていることは大きなアドバンテージになるかと思います。
・各大学の課題を解決するためには、資金の調達も含めた包括的なスキームをどう構築できるかを考えていきたい。
・国際教育の実践について、一歩引いて、客観的に捉える姿勢。
・「大学の個性や特徴を活かした戦略的国際化」が必要だと実感したので、本学らしさを活かした国際化を推進するために貢献していきたい。
・できるだけ具体的な方法論を教育現場に還元する必要とそこから出てくる問題点の共有を重視したい
・教職協働で話せる場を作る。
・国際教育の大きな動きを見据えながら、自分の置かれた状況(文脈)に合わせて自分の仕事を仕立てていく心構え。
・所属する大学の組織改編の中で、今後の国際交流事業をどのように展開していくのかを確認する必要があること、また、実際のプログラムや授業の作り込みにおいて特に評価の仕方について参考になることがありました。
・今までの仕事の優先順位や、他に進めなければならないこと、簡易化していけることなど見直してみ

ようと思います。
・国際化するために、多様化を一番最初に求めてはいけないこと。
・1 開放性から始まり、2 融通性、3 通用性、4 接続性、5 流動性、6 多様性の順番に国際化を進めることを意識できるようになった。"
・様々な分野の委託業務を行っている大学の関連会社の社内で国際交流業務の専門職として仕事をしているが、国際交流の専門性とは何なのかという非常に答えにくい問いが聞かれることもある。今回先生方のお話しの一端にヒントがあるように感じたが明確な答えは見えずで少し悩ましい思いが残った。
・国際化についての指標をもう一度考え直し、BEVI などの学生の成長を可視化できるアセスメントの有効活用できるようさらに勉強していきたいと思います。BRIDGE Institute のワークショップ内で使われたプレゼンテーションやアクティビティーアイディアはそのままこの秋学期に使用していこうと思っています。
・上記のセッションが主に直接的に自分の仕事に活かせるものでしたが、他のセッションも全て間接的に役に立つもので、非常に即効性のある研修で感謝しています。
・自学での国際交流プログラム策定の参考とする。
・自己研鑽へのモチベーション。
・国際交流センターの教職員でビジョンセッションをする。
・どのような教育・研究が行われているのかを知る(積極的に情報を取りに行く)。
・センターの取り組みについて知ってもらう機会を増やす。
・異動は避けられないため、専門職として国際交流担当業務を続けることはおそらく不可能だが、プロフェッショナルとしての意識を持ち続けようと思えるようになった。
・「短期化」「多様化」の潮流にある留学プログラムの現状において、いかに質を確保するかや、学びを可視化するプログラム作りの重要性を感じたため、今後、改編も含めてこれらの対応を行っていきたい。また、カリキュラムとの連動についても重視していきたい。
・大学関係者の方々とお仕事をさせていただく上で、どのようなことが課題と感じていらっしゃるのかがわかり、今後の仕事にぜひ役立てたいと思いました。
・大学内部で国際化に向けて取り組める内容に限りがあるのであれば、私の所属している外部機関との連携を持って留学前~後のサポートを整えて、各大学の国際化に貢献したいと考えます。
・大学などの教育機関の方と、またその教育機関内でさまざまな立場の方の考え方についてより理解をすることができたので、今後協働で取り組む際に役に立っていくと思います。
・研修の企画に理論を取り入れる。
・大学の国際化やグローバルな取り組みについては、正解がなく、各大学の文化や進行度により、異なることが理解できた。今回、トップクラスの方の取り組みを学ぶことで、今後、所属大学においてカスタマイズしながら活かしていきたい。
・今後も、国際教育の方向性や意義などを考えながら学生たちと接していきたいと思う。また、各大学との連携や協力、情報共有の重要性を感じる機会となり、このような大きな研究大会の機会を待たずとも、意識的に、交流の機会へと足を運びたいと思った。
・英語研修に参加した学生のレポートを読むと、多くが同様の学びをしているが、全く同じ学びがなく、またとても細かく小さな学びもある。理論化すると整理はされるが、小さな学びが省略されていく気がする。そのような細かい学びや事例をどのように包括できるのか、今後考えていきたいと感じ

た。"
・ABK さん、大学改革支援・学位授与機構の NIC や各大学との連携・協力の可能性を模索し、日本における FCE の整備に少しでも貢献できればと思います。
・学歴判定する大学職員向けのワークショップ等開催できればと考えている。
・自身も出願書類の確認などを行う業務に携わることが多いのでとても参考になりました。
・いくつかの大学の国際交流部と実務に関して意見交換ができる状態を作りあげたいと思う。
・状況に甘んじることなく、目的と意思を持って業務を進めたい方向に進めていきたい。
・自分たちの活動に取り入れられそうなところは取り入れ、次年度の戦略を考える上で参考にしたい。
・学んだことはそのまま現在の業務に直結するものですが、多様なバックグラウンドの学生がいる中で、大学としてどのように対応していくかは各職員が考えていかなければならないことだと感じました。
・国際交流係の事務員および今度採用する新教員に来年参加することを強く言い伝えます。
・小手先の募集ではなく、教育内容や入試制度を含めて全学的に募集戦略を考えなくてはいけないとの認識をもつことができた。今後本学の戦略を考える際には念頭において考えていきたい。
・現在は広報・リクルートを担当しているが、アドミッションを将来的に担当する際に役立てたい。
・プログラムに合わせて、学生の成長の測定をしていこうと思う。
・、国際入試の分野において、欧米等の入試状況を紹介し、日本の大学の課題やその対応案をまとめたり、各国の成績の換算表を作成して無料で配布するなど、SGU を取っていない「その他大勢」の大学のために一緒にできることをやってみましょうか、という話になっている。どこまでできるかわからないが、やってみたいと思っている。
・普段はなかなか参加する機会がありませんが、様々な大学の方とご挨拶することができ貴重な経験になりました。旅行会社・留学エージェントとして大学の皆様のお役に立てることがあると思いますので、今後も努力していこうと思います。ありがとうございました。
・担当している海外派遣プログラム(交換留学、短期プログラム)、交換留学生受入れにおいて、学生へのフィードバックを出すタイミング、アセスメントをどう学生の学びに連動させるかを図っていきたい。大学を異動し、過去 2・5 年間で初めて担当した業務に係るコンピテンシー・マトリックスを作成し、自らのプロフェッショナル・スキルの振り返りを実践する。
・他大学との国際部門の連携強化を図りたい。
・国際プログラムのリクルートやアドミッション担当ということもあり、勢い、学生を集めてくればよい（量的結果の追求）となりがちでしたが、やはり教育に関わるものとして、学生を成長させるとともに、自分も何か成長できるようなモノがないと、結局国際プログラムも魅力あるものにならない、と思いました。青臭いかな。。。
・先日 JTB リスクマネジメントセミナーを受講しました。本学は来年 3 月にアメリカへ派遣する予定があり、実際に安全管理について見直し、さらに本学での危機管理体制についても学ぶいい機会となりました。
・違うアングルから国際教育について考えることができるかと思います。学生目線だけではなく、運営目線からも問題を考えることが出来るようになるかと思います。
・留学前説明会やガイダンス、留学準備等における活用。
・効果検証と弊社提供価値との連動。
・大学職員として数年に 1 度のペースで人事異動が行われる中、いかにして専門性を高めることがで

きるか、また海外とのつながりを継続できるかを検討するきっかけとなった。
・自身が担当する国際関連の取組を、理論で捉えなおす、という発想がなかったので、その面白さを知り、国際教育分野のどの理論が該当するのか探してみたい。
・改めて自身の仕事や生活の振り返りが大事であり、どのような形であれ実践したい。
・大学の上層部の方針に従うのみでなく、自分の部署で自ら考えることの必要性。
・本学の次の課題は、学部学生の英語力の底上げが課題だと感じて参加した研究大会でしたので、具体的な 1 年次からの働きかけを考えてみます。
・学ぶ姿勢を忘れず、よりよいものを作る意識を持つこと。
・失敗事例、成功事例を常にイメージして対応したい。
・国際教育に関する学術的動向や他大学の経験からも学びながら、広い視野で大学の国際化と国際教育の推進に取り組んでいきたい。
・今後も異文化コミュニケーションについては、勉強し続けていこうと思えたこと。今回知り合った方と協働で渡航前オリエンテーションや帰国報告会の改善を行う予定であること。また新しい大学と何か一緒に出来ないか協力体制の話を行っているので、今後の仕事に繋がる出会いが出来た。
・授業ではないが、課程外留学に関する評価を取り入れていきたい。
・アセスメントという視点を全ての教育・研究・大学運営活動に取り入れる。
・国際教育分野において、まだまだ学びが足りないと感じ、こういった機会があればもっと積極的に参加したいと思った。
・自分の仕事は、誠意と熱意を絶やさず行う必要があり、その様子を理解してくださる方が、所属先だけでなく、他の機関等に広くたくさんいてくださるということ。
・積極的にいろいろなプログラムに関わりたいです。
・色んな方面の方々、NAFSA では出会うことがない大学の方々にお会いでき、ネットワークを築くことができました。ありがとうございます。また、セッション一つ一つが留学アドバイジングに役立つような内容であったり、弊機関にも応用できそうな事柄であったりとあったので、個人的にも、所属する団体としても非常に有意義なものでした。そして、何より皆さんのエネルギーを感じることができ、自分自身のモチベーションアップにもつながりました。ありがとうございました。
・研究職を志望しているので、実践と研究の連続性について考える良いきっかけになりました。
・自身が関わっている取り組みを周りの関係者と振り返る機会を作っていく。
・留学のアセスメントのあり方を考える上で参考になった。研究、実践等に生かしたい。
・アセスメントについて、自分の働き方について。
・国際教育を担う人材育成のあり方について、さらに考えていきたいと思っています。
・AI に置き換えられない人間特有の判断領域、特に芸術的判断を中心とする 21 世紀型の学習がどのようなものであるかとの視点から教材開発を行いたいと思う。
・アセスメントづくりで学んだことは、実際の現場で応用が可能であると思う。また、自身の未熟さを痛感できたので、これを学びとしより成熟した大人になれるよう精進したい。Housing 関係者のネットワークを強化し、より組織的な情報交換の場を設けていく
・会社が持っているノウハウを学校側に提案・提供し日本の英語力を高めていく。
・Webinar で学びの場をもっと提供できないかと考えた。
・In addition to this, the wide range of topics generally covered over the three days has allowed us to expand our perspectives and has helped increase the general base of knowledge related to

international education that will generally increase the professionalism of our future work.

- As an educator, it was good to be reminded of the important considerations in IC-oriented education. I hope to apply the principles, and some of the specific activities, in my own classes.
- I think many people went home with new insight and practical knowledge.
- I would like to explore further what other models of international student recruitment activities take place within Japanese Universities to explore how our company may be able to offer services in Japan in the future.
- I would like to try to conduct research and publish it, and also continue learning no matter what situation I am in.
- I will definitely utilize the methods I learned in the workshops to nurture intercultural awareness and competencies of our students.
- I'll try to incorporate the evaluation tool once I learn more about it. I'm brainstorming with colleagues about blended learning.

２．本研究大会の内容に対する満足度
／Satisfaction rate regarding the contents of the conference

②基調講演（Keynote Speech by Dr. Darla Deardorff）

- Darla の ICC 関連のレクチャー。
- practitioner-scholar という概念があると知れた事。
- Duke Univ.の先生の授業で、自分自身の経験を振り返ることができました。
- Dr. Deardorff のお話が中途半端に終わってしまった印象です。
- The keynote speech could be longer. I felt the speaker did not have enough time to explicitly bind her ideas to theme of "professionalism"

③分科会セミナーI／Seminar I: COIL Workshop

- 教員目線での COIL 実施の困難な点。
- COIL の可能性
- COIL 関連のレクチャー
- 語学の授業において、海外との交流を COIL を通してやっていけたらいいと思います。

⑤パネル ディスカッション①「国際教育におけるプロフェッショナリズム」
／Panel Discussion ① Professionalism in International Education

- 大会タイトル「国際教育におけるプロフェッショナリズム」の意味や自身の仕事、研究等との関連を、様々な角度で考えるきっかけとなった。
- 日本の大学における国際業務担当職員の専門性の開発について、どうすればいいのかを内省したこと。
- 国際交流担当業務には、専門性が求められるということ。しかし、残念ながら日本の高等教育機関ではそれを目指すことが難しいということ。
- 日本では国際交流業務は専門職と認識されていないことから、「国際教育のプロフェッショナル」という定義がとても難しいことであると認識した。
- 事務職員は専門性がなかなか育たないという問題があり、教員・専門職は雇用が有期の場合が多く安定しないという問題を抱えていること。
- 堀江未来先生のご講演の中で、以下のご指摘がありました。「私たち大人は、不確実性が増す時代において、将来に対して悲観的であったり、不安を感じたりしている。その一方で、“古き良き時代(?)”を知らない子供たちは、日々しなやかにたくましく成長している。日本の高等教育が置かれている状況は大変厳しいものがあると思いますが、堀江先生がご講演の中で示唆されたように、将来に対して過度に悲観的になったり不確実性を憂いたりするだけではなく(危機感を持つことは重要ですが)、一人の教員として、目の前の学生の成長にどのように貢献できるのか、原点に立ち返る必要があると気が付きました。
- 国際交流のプロフェッショナリズムというテーマで基調講演やセミナーに参加したが、感覚だけで国際交流を進めるだけでなく、論文を活用しながら理論的にプログラムを構築しなければならないという点が非常に勉強になった。
- 現在の国際教育をとりまく現状を知ることができたことと、国際のプロフェッショナルとして必要な

意識、知識について、改めて認識することができたこと。
・パネルディスカッションも多様なテーマが取り上げられ、パネリストの方々から多くのことを学ぶことができました。
・国際教育におけるプロフェッショナリズムについて、自身の経歴に照らし合わせて考えることができました。教職員こそが、学び続けること、オープンであること、新しい知見やネットワークに積極的であることが大切だと感じる場面が多くありました。
・昨年、実は大学職員を辞めようかと思い悩んでいました。世界と連携しながら働く国際課の業務は非常に楽しかったのですが、パネルディスカッション 1 で澤谷敏行氏が"日本の職務観と職務編成は三角形である"と言われたように、余剰の部分は国際課で行うという、誰がやるべき仕事なのかという曖昧な業務を引き受け続け業務量の増加に疲弊していました。今回の研修で、何か国際教育に携わる身として、業務推進のエンジンとなる機会にしたいと思い参加しましたが、それが叶って嬉しく思います。全国の大学教職員の方と交流しながら、悩んでるのは自分だけではないと励まされました。最新の情報を受け取るだけでなく常に求め、世界基準の大学を目指していける人材を目指し努めて参ります。
・韓国の漢陽大学が、教職員にキャリアアップのためなどの手厚いサポートをしていること。
・人生を通して勉学を続けていくことの重要性(勉学を続けることが大切であることは誰しも同意すると思うが、韓国の大学から招かれた国際交流担当職員ゲストの言葉は心に刺さった。)
・パネルディスカッション;一日目の内容はプレゼンテーションの内容が盛りだくさんでしたが、もう少しディスカッションを聞ければよかったです。さすがに本音をぶつけ合うような場所ではなかったかもしれませんが、皆さんの想いをもう少しディスカッション形式で Spontaneous な会話もお聞きしたかったです。

⑦昼休みに行われた本会への寄付団体からのプレゼンテーション
／The presentations by sponsors during lunch time

・昼休みの寄付団体からのプレゼンテーションは、参加者の話声がうるさく、プレゼンテーションをしている方に失礼な感じだったので、きちんと時間を取った方が良いと思いました。
・昼休みに行われた寄付団体からのプレゼンテーションについては、 休憩時間にならず、中休みとして息をつく暇がなかった。
・お昼の休憩時に、業者さんによる紹介を聞かなくてもよい会場設営を希望します。
・Participants need to be informed of the contents of the lunch before hand so that they can make arrangements if they cannot eat that type of food - we were told we would get a bento, but on the first day we got sandwiches. The portion was small, and some people cannot eat bread.
・The sponsor presentations during lunch was a very bad idea. People want to take lunchtime to network, discuss the sessions they have just attended and make new friends. There was no downtime during the conference to do this.
・Especially after the first day when you had a good exchange between Hiroshi Ota and the MEXT person. You had energy in the room and some momentum. But then without any warning or notice to have the Chinese lady come on to speak for such a long time, it ended on low note, it was a downer for the first day of the conference. Everyone was already tired and looking

forward to the reception and to suddenly have the lady speak about her business was not a good decision. It ended up being a "lose-lose." Strategically, have the sponsors integrated within the conference schedule. Also let attendee's know why the sponsors are speaking, for without the sponsors there could not be a conference. Also limit the sponsor's talk to maximum 5-10 minutes. I think that was biggest issue for many people. All the volunteer staff and faculty worked incredibly hard. I think there were only small logistical and organizational things that could have been improved. But overall, for such a large conference, it was very well done. Congratulations!

3.ワークショップとセッションについて

①参加したワークショップ／Workshop you attended

◆Workshop A

・国際共修への多業種からの関心。
・国際共修の考え方と普及の仕方。
・国際共修の理論と実践。
・国際共修の評価。
・国際共修（異文化間共修）の基礎を改めて学ぶことができたこと。
・国際教育や国際共修に見出す意義が参加者間で多様だったこと。
・国際共修の WS に参加させていただきましたが、語学力以外の学習効果の可視化はこのエリアでも容易ではないことが良く理解できました。
・国際教育（共修）について、その重要性を再確認できたこと。また、シラバスの計画段階で、評価方法がとても重要であることを学んだこと。その国際共修の重要性をデータで提示し、全学的な範囲で理解してもらうことが国際教育の推進のために有効であること。
・具体的な手順や方法のみならず、理論的な背景についても学びなおすことができたことで新たな気づきがありました。
・国際共修に関する具体的な教育実践方法、国際寮における構成員のビジョンづくり等、講師を担当してくださった方々の情熱と共に、深く学ぶことができました。
・国際教育(共修)の授業に悩んでいたが、今回 workshop で学んだ方法を用いて悩む時間を短縮できそうである。また、海外研修プログラムに関しても相談できそうな方々と知り合うことができた。国際教育は特にこの時代にあって重要で学びであること、明るくポジティブに活動していくことが成功へのポイントであると感じた。
・ワークショップ A に参加しましたが、少しスケジュールがタイトでした。(ワークショップの内容は非常に充実しており、大変勉強になりました。大満足です。)もう少し休憩の時間を挟んでいただけると、リフレッシュできてよかったと思います。
・Workshop A は自分の業務と同じ内容だったので大変参考になった。セッションは自分の業務とは直接　関係ないトピックもあったが、同僚の業務に対する理解が深まったように思う。
・ワークショップ A は、内容が盛り沢山すぎた為に、ディスカッションとシラバス作成の時間が足りなくなってしまっていた。全体の量を 1/3~1/2 にして、ディスカッションやシラバス作成に時間をかけた方が良いと思う。

◆Workshop C

・教職協働の実現に向けて、双方の立場。
・教務関連部署、国際教育関連部署、ICT 関連部署の連携。
・シラバス作成に関するポイントや単位認定にする学内の大変さ。
・国際交流プログラムを策定する上でのプロセス(学内調整等)。
・海外留学プログラムの構築と学生の異文化への受け入れ過程について。
・プログラム構築に際しての理論と実践について学ぶことが多かった。
・Workshop C のやり方、国際教育にかかわる職員の考えや意見は、今後の自分の国際教育、外国人向

けの日本語教育の仕事に大変参考になりました。
・「自文化中心主義」から「文化相対主義」までのプロセスは、学生はもちろん、教職員も含め、誰がどの段階にいるのかを理解することが異文化理解促進のためには必要と感じた。ただ、適切なレベルの設定や学生に応じた「介入」については、かなりのスキルが必要となるため、課題も多い。
・WorkshopC の時間配分が素晴らしかった。(詰め込みすぎず、休憩もあり、考える時間も、作業をする時間も、理論を聞く時間も十分あった)
・ワークショップ C で、まずは自身の異文化体験の振り返りから入ったことで、学生目線に立った良い留学プログラムについて再考することができました。
・Workshop C「異文化体験を通した学び場の作り方―海外留学プログラミング―」の構成や進め方、非常に素晴らしかったです。特に、粘土ワーク、これまでない体験、とても印象的でした。
・今回のワークショップ C は、昨年参加させていただいた Bridge さんの企画と全く同じ内容だっだことを知らずに参加してしまったのですが、このような会に参加する方は私のようなリピーターも多いのではないかと思いますので、同じ内容であることが分かるようにしていただけるととても助かります。

◆Workshop D

・受験生の多様化から煩雑化する出願資格判定方法について。
・日本への大学入学資格審査の考え方や、調べる方法についてよく理解できた。
・国際学生に向けた学生募集活動での APU、早稲田大学の取り組みについて。
・各大学で学歴判定をする職員の全体的なレベルアップが必要と感じた。
・学歴判定の際、アドバイス等相談できる公的なセンターが必要であると感じた。
・出願資格についての知識について身に付けることができたのでとてもよかった。
・外国での学習歴のある方の入学資格の審査の仕方・考え方。
・早稲田大学・APU の外国人受け入れに関わる事例。
・外国学歴評価をワークショップにしたこと。大変なトライだったと思うが、素晴らしかったです。
・学歴・入学資格判定のワークショップと外国人留学生募集戦略に特に印象に残った。
・Workshop D が素晴らしかったと、派遣した若手職員が口をそろえて報告してきました。
・大学入学資格評価のケーススタディが特に良かったです。
・外国学歴評価のワークショップで得た知見を学内で情報共有する。また、留学生募集にもこの知見を反映させる。
・ABK さんの方ですでに多くの外国資格・学業成績の情報収集や日本の法令に照らし合わせて、日本の大学入学資格の有無について助言を行なっていることが分かった。
・国際学生募集を行っていく中で、出願資格の有無を含め、出願者の多様性を十分に踏まえたうえで活動を実施したい。
・早稲田大学・APU の外国人留学生募集戦略大学入学資格判定については直接そのような業務にないためグループワークは戸惑ったが、実際海外の留学フェア等で聞かれることも多いのでお話が聞けてよかった。
・海外リクルート手法、ならびに外国学習歴の評価方法について、他大学・機関に学ぶ点が多かったこと。今後も積極的に外部との情報交換を行い、組織内の議論・改革の活性化に貢献したい。
・本学においても、外国での学習歴のある志願者の入学資格の審査を出願前にしているので、審査する

上での考え方や情報源を活用していきたい。
・海外アドミッションのトップランナーである早稲田大学や APU のアドミッションの話を伺うことができて、本学には英語で卒業できる課程を有しているわけではないが、悩むポイント、困るポイントはほぼ同じなのだと気づいたこと。オープンに問題点を共有していただいて、大変ありがたく感じました。
・かなり複雑な作業である外国学歴評価をワークショップとして体験することができたこと。
・APU さんや早稲田大学さんの方でもすでに多くの経験や蓄積があり、それを他の大学にも助言したいという意向が確認でき、今後点と点が結びそうだと感じた。
・留学生募集戦略や大学入学資格審査はやっていても迷う点が多々あるので、他大学の状況など参考になるところがありました。
・大学入学資格評価のケーススタディは、まさに現在担当している業務ですので大変勉強になりました。確認すべき事項が多く複雑ではありますが、出願者の人生を左右する大切な業務ですので、一つひとつ調査を積み重ねて着実に進めていきたいと思います。
・海外の資格審査ということで、中国にある日本の学歴審査サービスについても拝聴したが、大学の学生募集担当者としてはあまり参考にならず、該当サービスの宣伝のように感じた。
・The Workshop D was very insightful and much to learn

③参加したセッション／Sessions you attended

◆Session ① 国際化は誰のために、何のために進めるのか

・Session1 については、IMPI について理論と実践をとおして学ぶことができた。
・大学の国際化戦略と指標と評価についての理解が深まった。
・Session 1 における国際化指標についての学びは大きかったです。弊団体大学の外から”大学の国際化に貢献する”というミッションを担っているため、非常に参考になるものでした。
・「国際」部署で担当する領域は広いからこそ、「国際化は誰のために、何のために進めるのか」を明確にして、まずは国際担当教職員のなかで共有することが、個々人の専門性や知識とは別に重要。
・国際化評価指標について学ぶいい機会であると思い、セッションに参加したが、データと知見を基にした話でとても勉強になった。
・他大学の事例をそのまま取り入れることはどの分野についても難しく、自大学のゴールを明確化にしなければ国際化戦略を立案することは不可能であるということ。
・事前アンケートへの回答の時点から、当日のセッションまで、全体を通して、自身の所属・大学の現状とそれに適した評価指標について改めて考える機会になり、非常に参考になりました。

◆Session ② Career Readiness and Global Internships

・グローバルインターンシップの仕組みと需要。
・セッション 2 の Career readiness については、プログラムの説明会のようになってしまっており、参加者が期待していたポイントについては言及されず残念な内容だったと思う。
・Session2 が、字面が多い PPT を担当の方が読んでいるだけ+現地をつないで DC の方などが話をされましたが、これもただ説明を淡々としているだけでしたので、タイトルの Career Readiness が学生にとってどうなのか、Global Internship をどのようにされているのかなど、あまりよく分からなかった。(ファシリテートやプレゼンの方法にまったく工夫がなく残念ながら入ってこなかった)非常

にもったいない Session に感じました。
・Session 2 の Career Readiness and Global Internships が期待していた内容ではなく、団体の案内に終始していた印象を受けた。せっかく海外をオンラインでつないでいたのに、一方的なアナウンスだけというのが特に残念だった。
・Session two was terrible. The speakers did not introduce their organization or tell is what they were going to talk about - they assumed the audience knew. They used skype for half of the session - they spent a lot of time setting this up, and did not inform us of why this was useful. We had no idea why they were talking about Mexico. The whole thing was a disaster.

◆Session ⑧ 留学プログラムの学習効果測定 – BEVI-j を用いた留学プログラム

・効果検証へのほかの皆様の関心の高さ=必要性。
・留学の効果の測定は Challenging ではあるが、取り組んでいかなければならない。
・留学プログラムの学習効果の測定 BEVI について客観的に測定できるので、本大学でも取り入れられたらいいと思う。
・BEVI は今後運用する予定のため、背景等をより深く知るために出席して良かった。丁寧に解説してくださったので、感謝しています。
・留学の効果等は意識変化等ですでに計測済だが、その方法等については適宜他校(特に広大)の取組が参考となる。一方で、ルーブリックや意識変化の比較を本学でも実施しているため、発信の価値がある。
・ BEVI ですが、「日本の講義らしい」形態とはなりましたが、個人的に興味があったものなので、勉強になりました。ぜひ何らかの形で西谷先生とご連絡を取らせていただいて、BEVI を活用したいと思っています。
・BEVI-j の研究内容について、人間は動機付けによってコンピテンシー（能力）を向上させることができるという見解にとても納得しました。本学（創価大学）は、Discover your potential というキャッチフレーズで、どんなに学生の成績が振るわなくても、課外活動や就職活動で思うようにいかない学生がいても、その時点で学生を判断せず、教職員や先輩・後輩が一貫して励ましする伝統があります。結果、想像以上に学生の能力を伸ばしたり、ベストな進路に進めるなどよくエピソードを伺います。本学は良い大学の風土があるのだから、これからは BEVI をより効果的に使いながら、学生の能力開発に直結するような留学プログラムを作り、監督・運営を意識したいと思いました。
・Deardorff 氏のご研究についてはある程度の予備知識があったため、90 分という短いセッションでもポイントを掴むことができましたが、BEVI についてはほぼはじめての学習であったため、理解が追いつかず、未消化に終わってしまった感があります。
・BEVI-J のセッションは、BEVI 開発やコンセプトの説明で時間切れになってしまったのが残念です。実用編・分析編をぜひ伺いたかったです。
・Possible instruments to measure the effectiveness for study aboard programs (BEVI) which was presented by Prof. Nishitani.

◆Session ⑨ The Changing Paradigm of International Education Outcomes Assessment

・ダーラさんの、Story circle もすぐに使えそうだったし、またグループメンバーの方々の話もすごくよかった。学生への課題に生かしたい。
・セッション 9 で、アセスメントの捉え方、重要性を理論的にも学ぶことができ、とてもわかりやすかった。
・Darla さんのセッションでの Assessment の新しいパラダイムである学習者中心のアセスメントという考え方。

◆Session ⑩ Tools for Developing Intercultural Competence

・Intercultural Competency の評価に関する、従来の方法との違い
・Darla 先生のセッション 10 は、終始非常にポジティブな雰囲気で、ファシリテーターとしての素晴らしいロールモデルを見させていただくことでき非常に満足です。
・Session 10 に関して、内容や進め方について大変勉強になりました。非常に意欲的な参加者ばかりで、とても良い場になったと思います。
・Session10 の教室は人数に対して少し狭かったように感じます。人数に適した部屋を充てられるように、来年以降実行委員として、開催校の方と協議しながら、検討する時間が持てるとよいと思いました。トイレ休憩もなしで、スケジュールがきつすぎ。

⑤上記の各企画において特に良かった点や改善のためのアドバイス
／Comments or suggestions on the workshops or sessions you joined

◆良かった点

・期待していたセッション以上のものであったと思う。
・同じセッションを複数回(太田先生、渡部先生)開催して頂いたことがとても良かったです。
・勉強になりました。ファシリテーターの方々が、参加者のバックグラウンドなどを考慮し、細かな部分まで考えてくださっていたのが素敵でした。ありがとうございました。
・データを使ったプレゼンテーションと他大学との意見交換で、様々な考え方やオプションがあることが具体的に理解できた。
・具体的な取り組みや事例を、写真やスライドを使用しながら教えて下さり、大変分かりやすかったです。
・International Res Hall: アイスブレーカーやアクティビティーを取り入れ、事例について情報を学びながら楽しく 90 分があっという間に過ぎました。ありがとうございます。

◆改善のためのアドバイス

・時間が短くて、内容が期待よりも表面的なレベルになっていた印象を受けた。
・いずれも、参加者同志の話し合いの時間が持てた点は、良かったが、1.5 時間と短く、頭出しをして終わってしまった、という印象。移動もあるため、2 時間程度が望ましい。
・ほとんど事例紹介のみで終わるものもあったので、出席者の方々と意見交換ができる者のほうが格段に満足度が高かった。
・国際化に携わる大学の教職員だけでなく、民間の留学斡旋企業や学生にも参加しやすいように、課題や設問等にもう少し考慮していただけたらと思います。

・理論を実際に活かす、という説明は他の workshop でもありましたが、適用することの重要さよりも、どうしてその理論が大事なのか、学術的に説明してほしいと感じました。
・事前に二つのセッションしか選ばない場合、残りの二つのセッションは、当日でもすぐ選べるようにもう少し工夫していただければと思います。例えば、Session1「国際化は誰のために、何のために進めるのか」は、事前に選択しないと、当日入りたくても入れないということが事前選択の時や当日の連絡事項として、お知らせいただければ有難いです。そうじゃないと、知らないまま、当日、教室に入ると失礼になりますし。
・ワークショップに時間の関係上参加できなかったため、他のセッションやワークショップにも参加できる仕組みを考えていただけると嬉しいです。
・受講できる Session の数が限られているのは少し残念でした。3 日間参加しても Workshop が 1、Session が 2 に限定されていたため、残念ながら参加をあきらめた Session もあり、その点はできれば改善をお願いしたいと思います。
・参加したいセッションの時間帯が重なってしまっていたため、(難しいとは思いますが)すべての講演に参加できるような仕組みがあるといいと思います。
・Session 9 を Session 10 とペアにして受講したかったが、Workshop A と重なり、受講できなかったので、次回から受講できるようにしてほしい。
・幅広いトピックのセッションが準備されていて良かったが、ワークショップ担当者(特に 6 時間)も他のワークショップに出られるようにスケジュールを組んでいただけるとよかったです。また、ワークショップを担当した講師陣の合同リフレクションがあるといいとおもいました。ワシントンセンターのセッションは非常にお粗末だと思いました。

4.ネットワーキングについて／Networking

4－1）来年、参加したいですか。
／Would you like to participate in the SIIEJ 2020?

4―2）同僚や友人に来年の参加を勧めたいと思いますか。
／Would you recommend the SIIEJ 2019 to your colleagues or friends?

- 同じ国際関係業務に携わる方々とのネットワークの重要性。（他多数）
- 教員、事務、企業担当者等、異なる立場の参加者と情報・意見交換ができた。（他多数）
- 様々な大学の教職員の方と、情報交換し、様々な悩みや困難を共有することができたことが大きな収穫です。
- 普段お会いできないような先生や国際に携わる方とお話しできたのも大きなプラスになりました。
- 様々な立場(教員・職員・企業・学生)で経験値もバラバラの方たちとセッションやワークショップを通じてコミュニケーションが取れたことはとてもよかった。
- 多くの人が国際教育に興味を持っており、ネットワーキングに熱心だということに、希望を持つと同時に、モチベーションを得た。
- 以前、参加できなかった別の勉強会のパワポの資料を拝見してお話をしてみたいと思っていた方とたまたま席が隣になり、聞きたかったことを聞けたり、色々と話ができてよかった。
- 各大学の皆様の学びや情報交換の積極的な姿勢に刺激を受けました。
- 自大学のポジションを確認するためには、他大学と比較するということも重要な手法の一つなので、こうした大きな研究大会で多くの関係者と交わることができることが大変参考になった。
- 国際教育というテーマのもと、これだけの人々が集まり、学び、議論を交わす熱意に感銘をうけました。
- お会いした各大学様から、日ごろご苦労されている内容を色々と直接うかがえたことが大変勉強になりました。
- 自分の選んだセッションやワークショップが manaba で分かるのですが、セッションごとに参加者名簿があると、より交流が促進されると思いました。
- 協賛企業の方の昼食の提供は有難い一方で、参加者目線で考えるとお昼休憩は協賛企業の話を聞くより、他の参加者との交流時間に使いたいのではないかと思った。大会の参加費用が安くないことを考えると、ランチが提供されることよりも効果的なネットワーキングの機会があることの方が重要かもしれない。
- 無料でネットワークの構築ができるような時間があるとよかった。お昼時間がそうであるかもしれないが、企業の宣伝が入り、出来なかった。1 日中セッションを入れるのではなく、もう少し時間に余裕があるとよかった。
- 全体的に満足度の高い内容でした。来年は、ランチタイムも自己紹介し合えるような仕掛けがあると良いです。
- 全世界からより多くの専門家や実務家が集まり、バックグラウンドが異なる人でもよりよいコミュニケーションができる場を作っていただくようお願い致します。
- たくさんの方と名刺交換をすることができたのですが、名刺を切らしている方が多くいらっしゃいましたので、事前にお知らせいただくか、あるいは、名刺を電子化して全員に共有(同意の得れた方のみ)してはどうかと思いました。

・講演自体は有意義ではあったが、もう少し他大学の教職員と交流し、他大学の事例も話を聞きたかった。職員と教員の区別が名札からわかればいいなと感じた。
・若い、経験の無い職員が、参加することで、知り合いが沢山作れるような仕掛けを考えてもらえると嬉しい。知り合いが知り合いと大きな声でワンワン喋ってる交流会(自戒もこめてそう言うのですが)は、ちょっと見苦しい。まあ飲み会とはそういうもので、ワークショップなどで協働する機会を増やすのがいいのかな。
・全体の印象として、ネットワーキングをする機会が少なかったように感じた。参加者の所属や肩書などのリストが事前に共有できると良い。
・事前に参加者リストがいただきたいです。

4－3）次回、取り上げてほしいトピックなど
／Topics what you want us to choose for the SIIEJ 2020

◆今年度と同様の内容について
・ふたたび国際共修を取り上げてほしい。
・国際化指標については、継続して実施いただけるとありがたいです。
・国際化を図る指標について、今年度に引き続き取り上げてもらいたい。
・海外学歴評価に関しても、引き続き、セッションでも良いので取り上げてもらいたい。
・国立大学事務の管理職の立場からは、今年度実施した WorkshopD は、ぜひとも来年度もやってほしい。同じ内容でも可能で、その場合は、また新しい職員を送るので、彼ら/彼女らには大きな学びの場となると思う。
・今回参加できなかったので、国際寮での学びのしかけ（一橋大学、国際教養大学、立命館アジア太平洋大学など)。
・I'm sure that this is difficult for the organizers as well, but I would think that it would be acceptable for some of the sessions from this year to be repeated next year, as due to the scheduling system I would imagine there are certain people who had interest in additional sessions that they were not able to fit into their schedule.

◆大学の事例・プログラムの動向
・各大学の海外リクルーティングの事例報告、ワークショップ。
・英語、海外留学以外の国際教育とはどのようなものがあるか、事例紹介。
・海外インターンシップ、ボランティアプログラムの最新動向
・アジア・オセアニアからの取り組みや、Perspective があればありがたいです。
・外部委託についても取り上げていただきたいのですが、ディスカッションでも理解したとおり、大学ごとに多様な形態が考えられるため、複数の事例紹介があると良いと感じました。
・学生の質が変化している昨今、留学前の心構え(expectation management、 異文化理解等)を事前研修やオリエンテーションとして大学や機関はどのように行っているのか知りたい。例えば、ホームステイをする学生向け(保護者向け)にどのような事前研修内容を組んでいるのか。最近ではシャワー時間お 10 分と言われただけでホームステイを変更したいとか、片親家庭だから嫌だとかいう学生や保護者がいる。また、スマホの利用で日本の保護者へ学生が小言をいうと親が大きくとらえて

問題になるケースもある。以前であると連絡もすぐにできない中、自分で考え乗り越える方法を見出さざるをえなかった事柄が、今はそうはいかない、などなど。。。

・I also had the impression that the participants showed the most interest when the sessions allowed them to reflect upon or analyze what they and their own universities are currently doing related to the topic of discussion、 and clearly compare what their current situation is with what possibilities their may be (if they and their universities can take the initiative and be flexible in exploring new ideas and methods of operation)、 so anything where universities can take stock in what they are currently doing and actively compare their practices with those of other universities in Japan and abroad while formulating new ideas through discussion would be of interest.

◆プログラム開発について

・海外協定大学等との共同学習プログラムの開発、運用
・海外留学プログラミング、他。今年の workshop を再現・発展させてほしい。
・交流提携先とのプログラムの共同開発について
・国際共同学位プログラム(ダブルディグリー、ジョイントディグリーなど)
・国際情勢とプログラム作り
・国際共修イベントの企画
・留学プログラムのカリキュラムとの統合。卒業が遅れない留学制度構築
・短期受入プログラムの開発について
・短期受入れプログラムの設計、考え方
・留学の動機付け、留学の事前・事後研修

◆留学生の受入れについて

・受入留学生の日本での大学生活への適応支援
・大学院留学生募集戦略、大学院生入学資格評価
・優秀な留学生獲得のためのポイント
・日本人の学生や留学生を海外に送り出すほうだけではなく、外国人留学生や労働者を日本に受け入れ、外国人の日本における定着・活躍のほうも取り上げていただきたいと考えております
・日本でのインターンシップの可能性について(海外からの留学生)

◆政府・JASSO・留学エージェント関連

・国際化に関する政府、国際機関、企業などによる外部資金および申請
・文科省や JASSO の国際教育に関するセッションがほしい。
・こういった取り組みや、国際教育の重要性をどのように大学や教育業界、世間に向けてアピールしていくべきかといった、教室の外に出るための議論と実践を行っていきたいです。
・留学エージェントと大学による活用実績報告

◆国際化戦略

・国際化戦略の立て方

・世界・国内大学ランキングの比較とランクアップの方法
・学校との連携(高大連携など)や産官学連携による国際化の推進
・留学者数増大のための方策
・国際教育における、個人のゴール設定、何をゴールに、どのようにゴールを設定すれば良いのか。

◆英語関連
・英語による授業のための WS
・英語コースの設計、考え方
・英語開講科目拡大のための方策
・2020 年にカリキュラムが変わる小学校英語教育について、現場での先生がたや大学での教師養成のトレーニングの内容や国際化についてのトピックもあればいいなぁと思います。

◆職員・部局関連
・教員・事務職員の英語(異文化コミュニケーション能力)研修
・国際交流担当「職員」に焦点を絞ったトピック。
・国際系教職員の専門性について
・国際交流部における実務的な問題提起と解決方法

◆マネジメント
・他学部との連携と交渉について(留学生が履修できるプログラム等について)
・国際学生寮の運営について
・海外に設置する(日本の大学の)拠点の運営
・学生派遣にかかる危機管理体制

◆アセスメント・効果測定
・国際教育におけるアセスメント
・アセスメント
・学生の学びの測定
・海外研修プログラムの客観的指標を用いたアセスメントの導入事例 （BEVI、 PROG など)。
・留学の効果測定について。
・BEVI だけでなく、それ以外の測定方法も知りたい。

◆その他
・国際教育研究に関する研究法(特に大学を対象とした調査の手順や手法)
・国際教育の動向、最新トレンド
・留学経験者や留学生のキャリア
・留学した学生、留学生の就職支援の方法
・Lingua Franca にも興味があるので、取り上げてほしい。
・NIC の役割と東京規約
・グローニンゲン宣言と FCE

・各現場で抱える問題をシェア出来る時間がもっとあれば面白いのではないでしょうか。
・意識の高い人たちの集まりだったので、下げるようになってしまうかもしれませんが、もう少し現場レベルの First タイマー的なセッションや、参加者が作り上げるセッションがあってもいいかな、と思います。
・ICC を深掘りいただきたいです。
・留学カウンセリング
・アル中や精神病や心の病を抱えた学生が増えているので対応法に関する心のケアや気を付けるべき言動などをお願いしたいです。
・学生への情報提供方策 etc..
・UCAS タリフや UK-NARIC バンド枠組みについて、資格ポイント・成績の換算表の作成について
・太田先生のお話の中で少し出ていましたが、Scholar Practitioner のあり方についてもっと学びたいなと思いました。
・Global competence framework
・I think a good balance of theory and practice is important. I would enjoy the opportunity to learn and brush up on theories related to intercultural learning, program development etc. But perhaps others do not need this!　Being a teacher, I am always interested in pedagogy too.

4－4）来年に向けた改善点、アドバイスなど
／Comments or suggestions for the SIIEJ 2020

◆運営全般について

・次年度以降のため、敢えて気になった点を挙げるとすると、運営の皆様方の内輪感があります。皆様のチームワークは抜群だったと思うのですが、それゆえに(?)閉会の際など、段取りが整っていなかった点などが気になりました。あのような空気は人によっては気にすることもあるかと思いますので、会全体を通してメリハリがあるとより良いものになるかと思います。
・参加するワークショップ、セッションのタイムテーブルが事前にわかるとよい。
・会計報告があると良いと感じました（私以外にも気にされている参加者が複数名いました)。
・パンフレットが細かく複雑で分かりにくかった。また、登録していなかったセッションに参加したいときに融通が利かなかったので、残念だった。
・3 日目の受付の際に、少し時間がかかったように思った。物品・業務の引継ぎ（受付は単純作業であるが、マニュアルがあればもっとスムーズにできると感じた）や、時間管理の点で、もう少し工夫ができるかもしれない。
・難しいとは思いますが、研究大会の Contributors に対する費用負担やサポートに関する事前情報がなく（もしくは明確でなく）戸惑うことが複数回あったので、来年に向けてマニュアルのようなものを作成しておいてはいかがでしょうか。
・二日目の全体会はなくてもよいかと思った。
・外回りにある会場までの案内掲示等を分かりやすく。

◆タイムテーブルについて

・自分の参加するセッションがわかりづらい（セッション名、講師名、会場、時間が一覧できるリストがあれば)。当日参加（変更）が可能かどうか。
・申込時のセッションの選択において、時間帯の重なりが分からず、結果として希望のセッションに参加できなかった。重なる場合は選べないようにする、あるいは、より分かるように表示してほしい。
・運営上、難しい部分もあるかと思いますが、可能な限り、ワークショップ、セッションが重なっており受講の制限が少なくなるとよいかと思います。
・それぞれ、大変有意義なお話を伺ったり、貴重な情報交換を行うことができましたが、それぞれに時間が足りなかったことが残念でした。
・もう少し時間に余裕を持って設定いただけますと大変ありがたいです。(他多数)
・ワークショップを半日にして、同日にセッションにも参加できるとありがたい。2 日間しか参加できなかったので。
・Darla 先生のセッションが受けられなかったのが残念でした。他のセッションやワークショップも 2 度ずつ受講のチャンスがあるといい。
・(どこに行ってもそうですが）ワークショップはできるだけ時間に余裕を持たせ成果の共有と意見交換を充実させて欲しい
・休憩時間が全くなく時間が押してしまったため、予め休憩時間を見越してタイムラインを組んでいただきたかったです。また、ランチの時間に寄付団体からのプレゼンテーションがあるとは存じ上げなかったので、事前にアナウンスしていただきたかったです。

・リフレクションの際に意見が出ていたが、セッションとセッションの間に休憩時間が全くないので困った。せめてコーヒーブレイクが出来る位、15 分位は時間が取ってあると良かったと思う。あと、PPT の資料が投影されていたが、字が小さく見にくかった。もっと見せ方に工夫が必要（紙での配布がない前提であれば）。
・28 日は、最終セッションの時間（14:30~16:00）、参加セッションの割り当てがなかったため、全体会合まで時間を持て余すことになった。事前にこのような仕組みであることを知りたかった。
・It was really intense and there were a lot to learn but I think it is better to have more breaks in between the sessions and workshops.

◆ワークショップ・セッションについて

・参加登録時に、ワークショップとセッションの開催時間の重複が不明瞭であった。研究会開始後に、登録できていたプログラム数が非常に少なかったため、セッションに切り替えて頂いた。開田さんのご手配に感謝しています。
・会場でのコメントにもありましたようにバイリンガルの Session、Workshop が企画されることに期待します。私自身、関心があるテーマが日本語での Session に集中していたこともあり、英語での Session には参加しませんでしたが、せっかくの機会なので使用言語に関係なく参加できる場があれば、より充実した学びができると思います。
・ワークショップについては、時間的に余裕がない中で課題を求められたことも厳しかったです。
・複数の Workshop 内でグループ作業が数回ありましたが、作業の内容が曖昧であったり、時間が足らないことがありました。お昼休みにする作業がありましたが、スポンサーさんのお話を聞かねばならず、できませんでした。そのあたりを改善していただけると良いかと思います。参加させていただき、大変ありがとうございました。
・セッション内容が今回のセッション 2 のようなものは避けてほしい。
・A participant suggested that the workshop on international programming should be conducted in English. I don't believe so, as the institute was directed to Japanese staff members. I think the current mix of Japanese and English was good.

◆manaba について

・せっかく manaba というプラットフォームがあるので、もっと有効に利用されるとよいのではと思いました。例えば資料を事前に受け取れるようにするとか、時間が重なってしまい参加できなかったセッションの資料や基調講演の資料も後でダウンロードできるというサービスがあるとよいと思いました。また、アンケートも早い段階でアップロードされていれば、記憶が新鮮なうちにコメントができたのではと思いました。
・事前に online 上にワークショップやセッションなどの内容の概要を載せてほしい。また、連絡が少し直前すぎるように思った。
・事前アンケートで希望のセッションを記入しましたが、それが参加可能かどうかがはっきりわかりませんでした。当日、manaba に表示されているものは参加が決定したものであることがわかりましたが、そのことが当日の前に通知があると良いと思いました。また、それに関連して、（私も含め）manaba に慣れていない人も多いようでしたので、そのような人への配慮がもう少しあると良いように思いました。

・The manaba system for the survey is very awkward. It is difficult to have to remember a new log in ID and password and this discourages people from answering the survey. The survey should be able to be answered without requiring a log in.

◆参加費について

・セミナーの選択肢が増え、著名なゲストスピーカーが参加され、前回以上に充実した内容ではありましたが、昨年度と比較してかなり参加費が高くなったため、来年はできれば参加費を据え置きにしていただけたらと幸いです。
・大学職員の参加率を上げるのであれば、現在の大会参加費は少し高いかもしれない（教員と違って研究費などがないので…）
・料金は若干高いです。
・参加費や懇親会費がやや高い。
・内容は素晴らしかったが、それでも金額は高過ぎたと思う。所属大学に負担してもらったが、自腹ではとても出せない。

◆その他

・今年の分もぜひお願いしたいのですが、パワーポイントの資料へのアクセスがいただきたいです。
・スケジュールの都合で、興味があっても参加できないセッションも多いので、講師の先生の許可が得られるなど可能であれば、資料などは共有いただけると嬉しいです。
・参加者が国際教員に関わるものが多いとすると、英語→日本語の同時通訳は不要であると感じた。日本語→英語への通訳がどの程度必要かにもよるが、同時通訳の委託費用を抑えて、大会参加費をもう少し安くする工夫ができればと思った。
・今回は教員と職員の両方が参加できる大会内容であったと思うが、セオリー的な研究を大会開催の終わりに実務に反映できる展開になるといいと思った。
・初日の懇親会前に、アイスブレイク的に小グループでの自己紹介ができると良かったかもしれない。
・交通の便の良い場所での開催
・会場までたどり着くのに坂道が多かったので、安易にスーツケースで来ることを選択したことに少し後悔しました・・。もし可能であれば、次の会場は平たんな道なのか、坂道なのでスーツケースは避けたほうが良いのか一言あったらとても助かります。
・オリンピックと重ならないように。
・名古屋名物を食べたかった。
・ドリンクサービスがあまりよくなったので茶菓子を充実させていただきたかったです。
・茶菓子の充実
・Water Server を置いてほしい。

お問い合わせ先

一般社団法人 持続可能な国際教育推進のための研究コンソーシアム

recsie@recsie.or.jp